

「なそのたまご」の正体を知ろう！③

「博士」に聞いてみよう (7月6日)

小学校の理科の先生に「博士」として来ていただく機会があったので、その場で「博士に聞きたいことはない？」と問いかけると、子どもたちは「鳥のこと！」と博士に聞き始めました。

博士 (小学校の理科の先生)



集合住宅も作ったし、えさも入れたんだけど、アリしか来ないんだよ。

どうしてかなあ？

そうだったんだね。何でだと思う？

博士とのやりとりの中で、A君が「鳥はね、こんな木の高いところにいるんだよね」と上を差して言い始めました。

博士が「高いところなの？」

A君「そう、そこに巣があるんだよ」

B君「じゃあ**本物の鳥**の巣の隣に置けばいいんじゃない？」



◎新たなキーワード「**本物の巣**」



◎新たな推測「**本物の巣と同じ、高いところに巣箱を置くとよい!**」

本物の巣がある高さに巣箱を移動しよう (7月7日)

博士とのやりとりの翌日、「本物の巣がある場所」に巣箱を移動しようという思いをもったA君とB君が「高い場所は届かないから手伝って」とやってきました。

先生とのやりとりの中で、「本物の鳥の巣は高いところにある」という漠然としたイメージは持っているけれど、巣の高さが鳥ごとに違うことや、巣がどんなものなのかということはよくわかっていないということがわかりました。

二人に梯子で高くつけるか聞くと「でもそれじゃ俺たちが見えないから、卵があっても気づかない」ということになり、元あった位置から自分たちが見える高さまで上げて調整することになりました。

しかし次の日も、鳥は来ず卵もありませんでした。「おかしいな・・・」と頭を抱え悩む子ども達でした。